

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書(欧文))				
(著書(和文))				
1. 鴻巣市史資料篇 4 近世二	共著	1996年8月	鴻巣市史編さん委員会	第五章「俳諧と文化活動」第一節「俳諧」を担当。小林甲子男氏と共著。P755～863
2. 俳人藤森素槩全集	共著	1998年10月	信濃毎日新聞社	「俳関」として全国に名を馳せた信州諏訪の俳人藤森素槩の全集。矢羽勝幸氏共編著。P1～498
3. 俳人塩田冥々・人と作品	共著	2003年12月	象山社	養種行商の傍ら俳諧の花を咲かせた奥州本宮の俳豪塩田冥々を顕彰。矢羽勝幸氏共編著。P143～458
4. 鴛鴦俳人恒丸と素月	共著	2012年8月	歴史春秋社	一茶との交流、駆け落ちの噂で知られる今泉恒丸、素月夫妻の生涯と作品を網羅。矢羽勝幸氏共編著。P1～112、120～489
5. 磐城平藩戊辰実戦記 - 藩士十六人の覚書	共著	2013年3月	平安会	磐城平藩士の「村上六郎書上」を二村が担当。共著者は小野一雄氏他12名。P61～69
6. 筑波の道 - 連歌俳諧史探訪	単著	2016年4月	常磐書院	連歌俳諧史を通観する一冊。近世後期俳諧の新資料を多く盛り込んだ。P1～143
(学術論文(欧文))				
(学術論文(和文))				
1. 修学期素槩小考 - 暁台門素槩の真偽について	単著	1995年12月	二松俳句刷新第1号	信州の俳関藤森素槩は加藤暁台門とされてきたが、その通説を否定して真実に迫る。P43～58 (査読無)
2. 素槩発句考 - 擬音語・擬態語の句	単著	1996年7月	二松俳句刷新第2号	藤森素槩の発句批評。オノマトペ使用の時代性と素槩の独自性について言及する。P26～31 (査読無)
3. 一茶筆写の俳書『三上吟』	単著	1996年12月	二松俳句刷新第3号	一茶筆写新資料『三上吟』を紹介。資料は一茶が芭蕉よりも其角に私淑したことを示唆する。P47～50 (査読無)
4. 文化文政期の地方遊俳 - 藤森素槩の俳業を通じて	単著	2005年12月	二松俳句刷新第21号	素槩の俳書入集状況から、その全国的な交遊と諸派交流の化政期の特徴を論述。P26～52 (査読無)
5. 平成16年度連歌俳諧関係論文目録・研究資料目録	共編	2006年2月	連歌俳諧研究110号	16年度の連歌俳諧関係論文、研究資料を網羅。三木慰子、鹿島美千代、千野浩一氏と共編。P42～71
6. 平成17年度連歌俳諧関係論文目録・研究資料目録	共編	2007年2月	連歌俳諧研究112号	17年度の連歌俳諧関係論文、研究資料を網羅。三木慰子、鹿島美千代、千野浩一氏と共編。P99～125
7. 享和期一茶の住所考 - 翻刻「諸国俳諧人名帳」	単著	2007年12月	二松俳句刷新第25号	従来知られていなかった浅草における一茶の住所を紹介し、享和期の一茶について考察。P16～28 (査読無)
8. 化政期俳人の西国志向 - 石井雨考付け廻し歌仙	単著	2008年7月	二松俳句刷新第26号	奥州須賀川の石井雨考が企図した西国付け廻し歌仙を紹介し、化政期俳人の西国志向について論述。P18～30 (査読無)
9. 新出一茶発句「巢の鳥の」五吟歌仙	単著	2009年12月	二松俳句刷新第28号	新出の一茶発句歌仙の紹介。入集俳書『吹寄』とその編者である北茨城の素英、隋和を紹介。P29～38 (査読無)
10. 時代を繋ぐ架け橋 - 『明鏡国語辞典』第2版刊行を祝して	単著	2010年11月	国語教育第92号 大修館書店	ニュアンスの違いを明確にする明鏡国語の特徴と、新版の授業実践における活用法を述べる。P18～19 (査読無)
11. 光圀の元禄期和歌活動 - 新出資料「光圀和歌園詠草集」	単著	2012年6月	茨城史林第36号	光圀の新出和歌と終焉の様子を記した新資料をもとに晩年の光圀の和歌活動を考察。P19～53 (査読無)
12. 恒丸の生涯を語る	単著	2012年7月	会津人群像第21号	化政期の宗匠今泉恒丸の顕彰が地元で遅れた原因、恒丸の功績について述べる。P134～139 (査読無)
13. 俳文芸の源泉	単著	2014年10月	芭蕉翁生誕370年記念事業実行委員会	文部科学大臣賞受賞者として執筆依頼を受け「芭蕉さんと私」をテーマに随筆を寄稿。P93～95 (査読無)
14. 現代俳句の試練 - 十七文字の可能性	単著	2015年10月	鶏鳴第29号	芭蕉の言葉等を踏まえて連句の存在意義を述べ、連句を顧みない現代俳句に警鐘を鳴らす。P15～16 (査読無)
15. 現代俳句の試練 - 季語の力	単著	2016年1月	鶏鳴第30号	時代と共に変遷する季語の中で、近世俳諧を用例に、時空を超えた季語の力について述べる。P15～16 (査読無)
16. 「古池や」の切字について	単著	2016年4月	鶏鳴第31号	芭蕉の「古池や」の句を禅の悟りの契機と考えた説について、近世俳人たちの言葉を踏まえて考察する。P15～16 (査読無)
17. 恒丸と双樹の両吟歌仙	単著	2016年6月	連句年鑑 平成28年度版	恒丸と双樹はどちらも一茶の知友である。二人による両吟歌仙二巻を鑑賞し、交流の実態を考察する。P13～23 (査読無)
18. 文政期の常総俳壇 - 守谷薬師堂奉納俳額を通じて	単著	2016年6月	茨城史林第40号	守谷の鶴老が主催した薬師堂俳額を通じて、文政期における常陸、下総俳諧の状況、一茶と茨城の関わりを考察する。P46～77 (査読無)
19. 『誹諧水滸伝』を繙く(1)	単著	2016年7月	鶏鳴第32号	遅月が著した俳諧伝記『誹諧水滸伝』について、概略を紹介する。内容は興味深い未完の稿本で、出版予告の3分の1しか写本が残されていない書物である。P15～16 (査読無)
20. 『誹諧水滸伝』を繙く(2)	単著	2016年10月	鶏鳴第33号	『誹諧水滸伝』に説明されている内容を踏まえ、連歌の発祥について伝承を紹介する。問答形式、三十一文字の定型としてのはじまりなど、作品例を挙げて述べる。P15～16 (査読無)
21. 『誹諧水滸伝』を繙く(3)	単著	2017年1月	鶏鳴第34号	俳諧の祖と称される荒木田守武と山崎宗鑑について、『誹諧水滸伝』に述べられている内容を踏まえて考察する。P15～16 (査読無)
22. 『誹諧水滸伝』を繙く(4)	単著	2017年4月	鶏鳴第35号	山崎宗鑑の天狗伝説、談林俳諧の指導者西山宗因についての記述を踏まえ、無心連歌から俳諧へとつながる韻文学の系譜について考察する。P14～15 (査読無)
22. 『誹諧水滸伝』を繙く(5)	単著	2017年7月	鶏鳴第36号	西山宗因と貞門派出身の野々口立圃、松江重頼の交流について述べる。『誹諧水滸伝』は宗因を重視するが、それは芭蕉の宗因評とも合致する。P14～15 (査読無)
23. 秋元双樹宛新出書簡集	単著	2017年10月	連歌俳諧研究第百三十三号	秋元双樹宛の新出書簡を紹介し、恒丸、泉兆、翠兄らとの交流について考察する。文化期間東俳壇における著名俳人たちの交流実態について、その一端を解明する。P39～48 (査読無)
24. 『誹諧水滸伝』を繙く(6)	単著	2017年10月	鶏鳴第37号	『奥の細道』の「山中」の章段に言及されている安原貞室が山中(石川県加賀市)で若輩の頃を受けた辱めについて、『誹諧水滸伝』に述べられている内容を踏まえて考察する。P12～13 (査読無)
25. 『誹諧水滸伝』を繙く(7)	単著	2018年1月	鶏鳴第38号	安原貞室愛用の琵琶が杉木望一所有のものであったこと、貞室の門人乾貞室の存在について、『誹諧水滸伝』に述べられている内容を踏まえて考察する。P15～16 (査読無)
26. 『誹諧水滸伝』を繙く(8)	単著	2018年4月	鶏鳴第39号	西山宗因を中心とした談林俳諧の台頭、井原西鶴の矢数俳諧等について、『誹諧水滸伝』に述べられている内容を踏まえて考察する。P16～17 (査読無)

27. 一茶と連句を巻いた少年簑輔	単著	2018年6月	いずみ通信No. 44 (和泉書院刊)	今泉恒丸夫妻に養子のように扱われた簑輔は、一茶、成美らと連句を巻いている。簑輔の 新出書簡を紹介してその存在にスポットをあてる。P7～8 (査読無)
28. 『俳諧水滸伝』を繙く (9)	単著	2018年7月	鶏鳴第40号	『俳諧水滸伝』で紹介された宗因の「蚊柱に」発句の考察と、談林派に染まらなかった小 西来山の考作について紹介する。P～15～16 (査読無)
29. 『俳諧水滸伝』を繙く (10)	単著	2018年10月	鶏鳴第41号	「風の言水」として名高い池西言水が妻と出会った折のエピソードが『俳諧水滸伝』にあ る。この内容の信憑性について考察を加える。P～14～15 (査読無)
30. 『俳諧水滸伝』を繙く (11)	単著	2019年1月	鶏鳴第42号	伊賀から江戸に移った後の時期における芭蕉の動向について、『俳諧水滸伝』の記述を踏 まえて考察をする。P～13～14 (査読無)
31. 『俳諧水滸伝』を繙く (12)	単著	2019年4月	鶏鳴第43号	季吟から芭蕉に『埋木』(秘伝書)の伝授があったという伝承について、『俳諧水滸伝』 の記述を踏まえて考察をする。P～13～14 (査読無)
32. 『俳諧水滸伝』を繙く (13)	単著	2019年7月	鶏鳴第44号	『桃青門弟独吟二十歌仙』に見られる談林時代の芭蕉の門人たちについて、『俳諧水滸 伝』の記述を踏まえて考察をする。P～13～14 (査読無)
33. 『俳諧水滸伝』を繙く (14)	単著	2019年10月	鶏鳴第45号	漢詩文調の蕉風俳諧を模索していた頃の芭蕉と門人たちの動向について、『俳諧水滸伝』 の記述を踏まえて考察をする。P～13～14 (査読無)
34. 平成29年国語学会の動向近世韻文・ 国学資料に対峙する基礎研究の今後	単著	2019年10月	文学・語学第226号	平成29年に刊行された近世韻文・国学にかんする著作の中から、地道な基礎研究に立脚 した好著作を選んで紹介し、私見を述べた。P～85～88 (査読無)
35. 『俳諧水滸伝』を繙く (15)	単著	2020年1月	鶏鳴第46号	芭蕉と素堂、信徳が交流して連句を巻いた『江戸三吟』と、その当時の様子について、 『俳諧水滸伝』の記述を踏まえて考察をする。P～13～14 (査読無)
36. 『俳諧水滸伝』を繙く (16)	単著	2020年4月	鶏鳴第47号	江戸蕉門の双壁といわれた其角と嵐雪と芭蕉が三吟歌仙を巻いたとされる『俳諧未来記』 (蓼太編)について、『俳諧水滸伝』の記述を踏まえて考察をする。P～12～13 (査読 無)
37. 『俳諧水滸伝』を繙く (17)	単著	2020年7月	鶏鳴第48号	芭蕉と池田句が仏頂との禪問答から成立したという今日でも著名な逸話について、『俳諧水 滸伝』の記述を踏まえて考察をする。この逸話は連月の著したものである。P～11～12 (査読無)
38. 『俳諧水滸伝』を繙く (18)	単著	2020年10月	鶏鳴第49号	芭蕉と池田句の成立伝説について、『蕉の松原』(支考著)の記述を踏まえて考察をする。 芭蕉が仏頂を尊崇し、禪に強い関心を持っていたことを述べる。P～11～12 (査読無)
39. 『俳諧水滸伝』を繙く (19)	単著	2021年1月	鶏鳴第50号	芭蕉と池田句が仏頂との禪問答の末に成立し、大自然の真実を悟ったことを示す句であつた かどうかについて、様々な資料を踏まえて考察をする。大自然の真実を悟ったP11～12 (査読無)
40. 『俳諧水滸伝』を繙く (20)	単著	2021年4月	鶏鳴第51号	芭蕉と交流のあった内藤露沾が役者の吉岡求馬に夢中になったという逸話について、『俳 諧水滸伝』の記述を踏まえて考察をする。P～19～20 (査読無)
41. 『俳諧水滸伝』を繙く (21)	単著	2021年7月	鶏鳴第52号	芭蕉と交流のあった内藤露沾が役者の吉岡求馬に夢中になったという逸話の信憑性につい て、内藤家文書等の資料を踏まえて考察をする。P～19～20 (査読無)
42. 『俳諧水滸伝』を繙く (22)	単著	2021年10月	鶏鳴第53号	芭蕉の一番弟子であった其角の酒色放蕩生活を芭蕉が諷めたと言われる句の昭和につい て、『俳諧水滸伝』の記述を踏まえて考察をする。P～19～20 (査読無)
43. 『俳諧水滸伝』を繙く (23)	単著	2022年1月	鶏鳴第54号	芭蕉が江戸の大火で芭蕉庵を焼け出され、高山五兵衛の招きによって甲斐に赴くことにな った経緯について、『俳諧水滸伝』の記述を踏まえて考察をする。P～18～19 (査読無)
44. 化政期俳人の西国旅行-『関本如髮集成染 筆帖』を中心に	単著	2022年3月	連歌俳諧研究第142号	化政期の会津俳人如髮が文化期に二度の西国旅行をして各地の著名人と交流した際、東海 道を中心とした商用ルートを活用しつつ家業と俳諧を両立させていたことが判明する。P ～1～14 (査読有)
45. 『俳諧水滸伝』を繙く (24)	単著	2022年4月	鶏鳴第55号	芭蕉が江戸の大火で芭蕉庵を焼け出され、甲斐に避難した際に曾良と出会ったという伝承 について、『俳諧水滸伝』の記述や他の資料を踏まえて考察をする。P～20～21 (査読 無)
(紀要論文)				
1. 書評 矢羽勝著『書簡による近世後期 俳諧の研究-「俳人の手紙」正統編注 解』	単著	1999年3月	二松学舎大学人文叢書62号	800通を超える化政期俳人書簡を翻刻、解説して数多の新事実を検証した好著を紹介す る。P33～37 (査読無)
2. 近世後期の東北俳壇-柳川英二書簡を通 じて	単著	2007年2月	平成18年度いわき地区高校国語教育研究会紀要	会津の如髮苑の新出英二書簡を紹介して化政期東北俳壇における俳壇闘争について言及す る。P1～10 (査読無)
3. 遅月上人と水戸俳壇	単著	2015年3月	常磐大学人間科学部紀要第32巻2号	常磐大学情報メディアセンターが購入した遅月資料を紹介し、遅月と水戸の関わりについ て考察。P85～96 (査読無)
4. 芭蕉百回忌と常陸茨城郡の俳諧(上) -佐久間青郊著『三百六十日々記』を通 じて	単著	2015年10月	常磐大学人間科学部紀要第33巻1号	野村村の俳人佐久間青郊の日記解説を通じて、芭蕉百回忌上半期の茨城郡俳諧を考察す る。P96～118 (査読無)
5. 芭蕉百回忌と常陸茨城郡の俳諧(下) -佐久間青郊著『三百六十日々記』を通 じて	単著	2016年3月	常磐大学人間科学部紀要第33巻2号	野村村の俳人佐久間青郊の日記解説を通じて、芭蕉百回忌上半期の茨城郡俳諧を考察す る。P136～164 (査読無)
6. 遅月上人の松島紀行	単著	2016年9月	常磐大学人間科学部紀要第34巻1号	化政期に水戸俳壇の指導者として活躍した遅月が、松島、塩釜まで赴いて記した旅日記を もとに、陸前浜街道の各地における俳諧及び文化の実態を探る。P136～164 (査読無)
7. 須田柿庵編『數鶴』-化政期著名俳人の 作品集(上)	単著	2017年3月	常磐大学人間科学部紀要第34巻2号	潮来の須田柿庵が集めた自筆稿本『數鶴』は当代著名俳人の発句集で、他書には見られな い新出句を多数含む。同書を翻刻紹介して考察する。P135～170 (査読無)
8. 須田柿庵編『數鶴』-化政期著名俳人の 作品集(下)	単著	2017年10月	常磐大学人間科学部紀要第35巻1号	潮来の須田柿庵が集めた自筆稿本『數鶴』の翻刻紹介の後半である。他書等には見られな い新出句が一句含まれている。P119～146 (査読無)
9. 幻窓湖中の奥羽日記『三月越』(往路 篇)	単著	2018年10月	常磐大学人間科学部紀要第36巻1号	近世後期の水戸俳人岡野湖中が東北地方を旅した折のことを著した自筆日記の往路の記録 について考察する。P87～110 (査読無)
10. 幻窓湖中の奥羽日記『三月越』(復路 篇)	単著	2019年3月	常磐大学人間科学部紀要第36巻2号	近世後期の水戸俳人岡野湖中が東北地方を旅した折のことを著した自筆日記の復路の記録 について考察する。P134～152 (査読無)
11. 一茶江戸漂泊期における関東の月並句合 -白芹・午心・恒丸・其堂評	単著	2019年10月	常磐大学人間科学部紀要第37巻1号	大妻女子大学図書館が所蔵する月並句合は、一茶が江戸を漂泊していた文化期に同時代の俳 諧宗匠たちが発行したものである。それら14点の月並句合について考察をする。P147 ～172 (査読無)
12. 浄国寺書画帳-望西台に訪れた著名人た ち	単著	2020年3月	常磐大学人間科学部紀要第37巻2号	浄国寺に遺る書画帳は、成美、一茶、素月、華山といった著名人が来訪して揮毫した サイン帳である。この貴重な書画帳とその染筆者について考察を行う。P58～80 (査読 無)
13. 筑波庵翠人の俳諧道場	単著	2020年9月	常磐大学人間科学部紀要第38巻1号	常陸・下総の庶民層に広く俳諧を指導した龍ヶ崎の杉野翠人の活動について考察する。翠 人のきめ細かい指導の実態を撰集、奉納句額、引札等の資料によって明らかにするP57～ 74 (査読無)
14. 関本如髮集成来翰集(第一巻)	単著	2021年3月	常磐大学人間科学部紀要第38巻2号	日本全国の俳人から会津の関本如髮に宛てられた書簡等64点を紹介し、注解を加え、差 出人を地域別に分類して考察を行う。P65～88 (査読無)
15. 関本如髮集成来翰集(第二巻)	単著	2021年9月	常磐大学人間科学部紀要第39巻1号	日本全国の俳人から会津の関本如髮に宛てられた書簡等58点を紹介し、注解を加え、如 髮宛の第一巻の内容を踏まえて考察を行う。P82～106 (査読無)
16. 関本如髮集成来翰集(第三巻 巨石宛)	単著	2022年3月	常磐大学人間科学部紀要第39巻2号	日本全国の俳人から関本如髮の父巨石に宛てられた書簡等64点を紹介し、注解を加え、 差出人を地域別に分類して考察を行う。P148～172 (査読無)
(辞書・翻訳書等)				
(報告書・会報等)				
1. 露沾を追慕した俳僧遅月	単著	2012年10月	結yui第24号八十八膳献教会会報	水戸、平瀧、磐城を中心に活動した俳僧遅月が、芭蕉の知友露沾について語った資料を紹介 する。P1 (査読無)

(国際学会発表)				
1.				
(国内学会発表)				
第五十一回俳文学会全国大会研究発表 1. 「文化文政期の地方遊俳 - 藤森素槩の俳業を通じて」	個人	1999年10月	俳文学会 (於信州大学)	「俳閑」と称され、信州諏訪を通過する行脚俳人を留めて世話をした藤森素槩の俳業について発表。俳人番付等の資料から素槩の在世当時の評判は一流の扱いを受け、同郷の一家を凌ぐことが判明する。
2. 第一回いわき歴史文化研究会研究発表 「磐城の近世後期俳諧」	個人	2007年10月	いわき歴史文化研究会 (於いわき市文化センター)	蕉門の系譜を受け継ぎ、四世まで続いた沾園、磐城湯本俳諧の隆盛に寄与した東嶽らの活動を検証し、磐城に来訪した冥々、遅月らの旅日記を紹介した。
第六十一回俳文学会全国大会研究発表 3. 「文化文政期の行脚俳人 - 常磐地方における遅月庵空阿の活動を通じて」	個人	2009年10月	俳文学会 (於筑波大学)	備中出身の遅月庵空阿は文化文政期に水戸を中心として平潟、磐城に至るまで数多の門人を擁した宗匠である。茨城県立歴史館所蔵の「遅月発句集」「松島紀行」等の資料から遅月の常磐地方における活動について検証した。水戸市神埼寺の遅月分音碑、飯富龍光院の遅月建立芭蕉句碑等、水戸の史跡についても全国の俳諧研究者に紹介した。
平成23年度茨城地方史研究会研究発表 4. 「光圀の元禄期和歌活動」	個人	2011年6月	茨城地方史研究会 (於茨城県立歴史館)	水戸藩士榎山儀左衛門正昭が筆写した「光圀和歌詠草集(仮題)」は、光圀の新出和歌133首、水戸藩家臣ら164名の和歌を収録する。また、安藤年山著「手向草」の全文も筆写されており、光圀終焉の様子を年山の視点から伝える重要な新資料である。北茨城で発見したこの資料をもとに光圀の晩年の和歌活動について発表をした。
平成24年度いわき地区高等学校国語教育研究会研究発表「俳諧指導者としての一茶と恒丸」	個人	2012年8月	いわき地区高等学校国語教育研究会 (於いわき市)	小林一茶と奥州三春出身の今泉恒丸。文化期に交流のあった両者の対照的な俳諧指導法について紹介した。恒丸は門人四千人を擁し、指導者としてのスケールでは一茶は足下にも及ばなかった。
第六十八回俳文学会全国大会研究発表 「秋元双樹の俳諧」	個人	2016年10月	俳文学会 (於日本女子大学)	一茶の庇護者として知られる流山の秋元双樹に宛られた新出書簡集、及び恒丸、双樹、一茶による自筆の『俳諧草稿』を紹介し、文化期の関東俳壇を支えた双樹の交流について発表をした。
第七十回俳文学会全国大会研究発表 「浄国寺書画帳 - 著名人の筆蹟」	個人	2018年10月	俳文学会 (於一茶記念館)	銚子市浄国寺が所蔵する書画帳は、銚子に来訪した俳人、歌人、画人、国学者等の著名人立川グッドが揮毫したサイン帳である。書画帳を備えた大里桂丸と、来銚した一茶、素月、五芳、与清、華山らの作品と、来銚を裏付ける関連資料を示して実態を解明する。
第七十二回俳文学会全国大会研究発表 8. 「関本如髪集成染筆帖 - 化政期会津俳人の西国旅行」	個人	2021年10月	俳文学会 (於オンライン開催)	文化文政期の会津俳人関本如髪が香基地の著名俳人による染筆を集成した新資料『如髪集成染筆帖』(常磐大学情報メディアセンター蔵)を紹介し、如髪宛書簡等の資料と対照して、文化期の西国旅行について考察した。科研費基盤Cの成果報告。
(演奏会・展覧会等)				
(招待講演・基調講演)				
1. 平成13年度方言の業探検講座 「近世会津の俳諧」	個人	2001年8月～10月	喜多方プラザ主催 (於喜多方プラザ)	近世の会津俳諧について全5回にわたり講義。最終回の文学散歩では会津柳津の古利円蔵寺に現存する芭蕉句碑等を訪れ、その建立の経緯について解説した。
「掛く・見る・聞く」諏訪を知る歴史講座 2. 「一時雨ながれたあとや夜半の雪 - 俳人藤森素槩」	個人	2011年11月	諏訪市公民館主催 (於諏訪市文化センター)	諏訪の俳人藤森素槩の生涯、作品について解説をした。また、諏訪に伝わっていた曾良旅日記の存在や、素槩の新資料と考察、俳画の展示紹介を実施した。
第67回芭蕉祭文部科学大臣賞受賞記念講演会「鶯鶯俳人恒丸と素月 - 数奇な二人の生涯」	個人	2013年10月	芭蕉翁顕彰会、伊賀市主催 (於ハイトピア伊賀)	第67回芭蕉祭文部科学大臣賞受賞記念講演会として、受賞作『鶯鶯俳人恒丸と素月』をもとに講演を実施した。恒丸と素月の駆け落ちの実態、恒丸の指導法、一茶との関わり、素月の大行脚等について解説をした。
4. 常磐大学オープンカレッジ 「俳句のルーツを探る」	個人	2015年5月～6月 (全5回)	常磐大学地域連携センター (於常磐大学)	水戸ゆかりの遅月が著した『俳諧水滸伝』を読解することにより、俳句の歴史を探りながら古典俳諧作品を読み味わった。
5. 常磐大学オープンカレッジ10周年記念講座 「一茶と茨城・守谷薬師堂俳額を通じ常磐大学オープンカレッジ10周年記念討論会」	個人	2015年9月	常磐大学地域連携センター (於常磐大学)	守谷市に現存する俳額は一茶時代の全国著名俳人の作品を集めた貴重な文化財である。俳額から考察できる茨城と一茶の関わりについて解説した。
6. 常磐大学オープンカレッジ10周年記念討論会 「茨城の文化を考える」	集団討論	2015年9月	常磐大学地域連携センター (於常磐大学)	常磐大学オープンカレッジ10周年記念企画として、講座を担当した5名の講師(糸賀茂男、滝口泰行、河野敬一、市村真一、二村博)が一堂に会して討論会を実施した。
7. 常磐大学オープンカレッジ 「おらが春を詠む」	個人	2016年6月～7月 (全5回)	常磐大学地域連携センター (於常磐大学)	化政文化における代表作『おらが春』の影印本を読解し、くずし字の基本を学ぶ講座を実施した。また、一茶の文学世界について読み味わった。
8. 第12回一茶双樹まつり講演会 「一茶時代の俳人たちを支えた流山の秋元双樹 - 恒丸・双樹・一茶の交流」	個人	2016年10月	一茶双樹まつり実行委員会 (於一茶双樹記念館)	流山の秋元双樹と交流した当代著名俳人の恒丸と一茶についてお話をした。書簡資料、発句、連句等の作品から、それぞれの人物像を理解できるようにした。
9. 2017年一茶記念館講座「一茶と鶴老の交流」	個人	2017年7月	一茶記念館主催 (於一茶記念館)	最古の一茶句碑に刻まれた一茶発句は守谷で詠まれたものである。守谷の鶴老と一茶の親しい交流について、俳額、文書等の資料を踏まえながら解説をした。
10. 平成29年布川一茶俳句大会記念館講演会 「布川の古田月船と小林一茶」	個人	2017年11月	利根町歴史探訪の会主催 利根町、利根町教育委員会後援 (於利根町役場)	一茶が房総巡回時代にもっとも頻りに訪れたことが確認されるのが布川である。一茶をもてなした古田月船と布川における一茶の動向について解説した。
11. 前期研究会講演「俳文学にみられる教養と意思疎通」	個人	2018年6月	いわき地区高等学校図書館研究会主催 (於小名浜高等学校)	古典文学作品等を踏まえた俳文学作品を紹介し、教養を身につけること、コミュニケーションをとって他者と調和することの大切さを述べた。
12. 平成30年度いわき地区高等学校図書館後期研究会講演「恋句のわたりを詠む」	個人	2018年10月	いわき地区高等学校図書館研究会主催 (於小名浜高等学校)	連句における恋呼び、恋、恋離れの句を高校生が実際に詠み合うという活動を実施した。表現活動を通じて実践的に言語感覚を磨く機会を設定した。
13. 平塚公民館平成30年度後期市民講座 「いわきに俳諧を広めた内藤露沾」	個人	2018年12月	平塚公民館主催 (於平塚公民館)	露沾と芭蕉との交流、露沾の短冊紹介、「俳諧水滸伝」に見られる露沾のエピソードを通じて、いわきに俳諧文化を根付かせた露沾の活動について解説した。
14. 諏訪市公民館主催市民大講座 「曾良が果たした役割」	個人	2019年2月	諏訪市公民館主催 (於諏訪市文化センター)	曾良の生涯について、現在確認できる資料をもとに解説し、曾良が果たした役割が旅による情報収集活動であるということ述べた。
15. NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会主催講演会 「筑波庵翠兄の俳諧活動」	共同	2019年2月	NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会主催 (龍ヶ崎市文化センター)	流通経済大学准教授中原篤徳氏との共同で講演会を実施した。二村は筑波庵を拠点とした翠兄の俳諧活動について、90分の持ち時間で講演した。
(受賞(学術賞等))				
1. 全国図書館協会推薦図書認定	共同	2004年3月	全国図書館協会	著書『俳人塩田冥々 - 人と作品』(矢羽勝幸、二村博共編著)が全国図書館協会より、推薦図書として認定された。
2. 第67回芭蕉祭 文部科学大臣賞受賞	共同	2013年10月	芭蕉翁顕彰会、伊賀市主催	著書『鶯鶯俳人恒丸と素月』。(矢羽勝幸、二村博共編著)が前年度刊行された俳諧関係研究書の最優秀図書として選出される芭蕉祭の受賞式、記念講演会「鶯鶯俳人恒丸と素月 - 数奇な二人の生涯」には二村が代表として出席、講演をした。

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表、 分担等 の別	種 類	採択年度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1.		-		-		
(学内課題研究(各個研究)) 1.	-	-		-		
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.	-			-	-	